

総合安全保障研究科第12期学生

選抜筆記試験問題

国際関係論

次の2問に答えよ。

- 問1 「国際システムに覇権国が存在することは望ましいか」という点について、①勢力均衡論、②単極安定論のそれぞれの立場から論ぜよ。（①、②の両方の立場を答えること。）
- 問2 米国の軍備管理政策の現状と課題について論述せよ。（①具体的な軍備管理課題をいくつか取り上げること。②冷戦期との比較という視点を盛り込むこと。）

国際政治史

次の2問に答えよ。

- 問1 第二次世界大戦後の日韓関係には、何らかの意味で重要な節目となったと考えられるできごとがいくつか存在する。そのうち三つを自由に選び、それぞれ、節目だと考えられる理由を明確にしつつ説明せよ。
- 問2 民族と内戦の定義を説明し、冷戦後の内戦と民族主義の関係について論ぜよ。

公共経済学

次の2問に答えよ。

問1 環境問題対策のひとつである「排出権取引（排出量取引）」について、公共経済学的観点から論ぜよ。

問2 政治的景気循環とは、選挙や政治的イデオロギーなど、政治的変数が経済状況に影響し、好況不況の循環を引き起こすとする説である。この主張の是非について具体例を挙げて論ぜよ。

憲 法

次の2問に答えよ。

問1 自衛隊の存在が合憲であることを前提として、軍事の民主的統制のため「国会」が果たすべき役割、及びそのための法制度を具体的に説明しなさい。

問2 日本国憲法の「司法権」の憲法解釈上の意味を明らかにした上で、日本国憲法下において、安全保障領域で裁判所がどのような法的役割を担っているか、その法的限界に触れつつ論ぜよ。

国 際 法

次の2問に答えよ。

問1 主権免除について論ぜよ。

問2 国際法の下で設けられている、紛争の平和的解決に関する諸制度について論じなさい。

組織管理論

次の2問に答えよ。

問1 現在わが国では、官民を問わず、組織の不祥事、組織事故といわれるものが多発している。このような出来事におけるヒューマン・ファクター（あるいはヒューマン・エラー）について、自己の所説を、組織管理論（組織論）の概念、モデル、理論などを縦横に駆使して、可能な限り詳細に述べよ。

問2 F.W.テイラーの「科学的管理法」について、（1）いかなる意味で「科学的」といわれるのか、実際にテイラーがおこなった管理方法の内容を踏まえながら答えなさい。（2）科学的管理法は、組織の人間を機械の歯車とみなす管理法であるとの考えに対し、テイラーの立場から批判しなさい。

行政学

次の2問に答えよ。

問1 平成13年の中央省庁再編と内閣機能の強化の目的と、改革の経緯について説明し、日本の行政にどのような変化をもたらしたかについて論ぜよ。

問2 行政機関と民間企業との違いについて論述せよ。